



(1) 独立自尊

何者にも屈せず、誰にもおごらず、慣習や常識などにとらわれず、自分の良識と信念に基づいて考え行動する。同時に、他人もまた独立した個人として尊重する。福澤は、そのような「独立自尊」の人を育てることを学問の狙いとした。それは彼が、「一身独立して一國独立す」と「学問のすゝめ」に記したように、人をつくれば必ずと国も成熟していく、という考え方に通じている。

(2) 実学

福澤は、「実学」に「サイヤンス」とフリガナをふった。つまり「実学」とは、単なる実用の学ではなく「科学」のこと。問題を発見し、仮説を立てて検証し、結論を導いていくという、「自分の頭で考える」プロセスに通じる「実証科学」のことを意味している。まだ誰も答えを見つけていないテーマを設定し、「自分の頭で考える」力を養うことは、慶應義塾における学びの柱である。

(3) 半学半教

学ぶことは、教えることに通じる。そして、教えることは、学ぶことに通じる。慶應義塾では、学ぶ者と教える者を区別せず、教員と学生、先輩と後輩などの立場を越え、学び合い教え合いともに成長する「半学半教」の精神が大切にされている。それはまた、奥の深い学問にゴールはなく、社会をリードする立場になっても学び続けなくてはならない、というメッセージでもある。

(4) 自我作古

「自我作古」は「我（われ）より古（いにしえ）を作（な）す」と読み、前人未踏の新しい領域に挑み、目標に向かって前進し続ける志と使命感を表している。日本の近代化において、いくつもの重要な事業をリードしてきた慶應義塾の先人たちは、身をもってこの精神を実践してきた。困難にくじけることなく、自ら先頭に立って未来へ。慶應義塾は、気概のあるチャレンジを愛し、支える学塾でもある。

(5) 人間交際

慶應義塾には、「人間（じんかん）交際（こうさい）」を大切にしている。それは、「あらゆる学問は、人と人との交流のためにある。人と人との交流の中で、総合的な人間力が培われる」という福澤の考え方に基づくものである。忘れられない言葉、かけがえのない体験、深まる信頼関係…。人の心を動かすのは、人である。「人間交際」は、心を大きく豊かに育むための学びでもある。

(6) 社中協力

「社中」とは、学生・教職員・卒業生など、慶應義塾に関係する人たちの総称。目的を共有する者の集まりという意味が込められた「社中」の協力体制は、パブリックスクール（義塾）として150年以上にわたり成長を重ねてきた原動力である。その精神は、学びの志を経済面から支える奨学制度や、さまざまな分野が柔軟に連携する総合大学としての研究環境にも活かされている。

三田キャンパス・慶應義塾図書館旧館



図書館旧館は創立50年記念事業の一環として1912年に竣工し、1969年には国の重要文化財に指定されました。外壁上部に高く掲げられた時計の文字盤には、「TEMPUS FUGIT」（「時は過ぎゆく」の意のラテン語）が刻まれています。また、入口ホールの階段上を飾る「Calamvs Gladio Fortior」（「ペンは剣よりも強し」の意のラテン語）が記されたステンドグラスは、権力に屈しない慶應義塾の精神を表しています。

第1学年に入学を強く希望する日本国内（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県を除く）の高等学校等の出身者で、人物および学業成績が優秀であるにもかかわらず、経済的理由により本学への入学に困難を来している受験生に対し、経済支援を行うことを目的とし、奨学金の返済は不要です。

選考については、一般選抜出願前に申請を受け付け、候補者（50名以上）を決定します。その後、一般選抜に合格し、入学後に所定の手続きを行うことで奨学生として採用されます。また、6つの地域ブロックごとに選考を行うことで、地域の偏りをなくしている点も大きな特徴です。毎年の審査・申請により2年目以降も継続受給が可能です。

奨学金額は60万円/年（ただし医学部は90万円/年、薬学部は80万円/年）で、初年度は右記の金額に入学金相当額（20万円）を加算します。また、継続審査時に前年度までの学業成績が優秀と認められた者は、2年目以降80万円/年（ただし医学部は150万円/年、薬学部は120万円/年、理工・総合政策・環境情報・看護医療学部は90万円/年）に増額されます。



交流し、国際感覚を身につけられることも特長の一つになっています。2021年秋には高輪国際学生寮（港区・女子寮）が新設され、2023年3月には湘南藤沢キャンパス内にH（イータ）ヴィレッジがオープンしました。今後も、国内外からの優秀な学生を受け入れ、さらなるグローバル化を推進すべく、学生寮を計画的に整備、拡充していく予定です。



いとうひろのぶ
伊藤公平塾長

1989年慶應義塾大学理工学部計測工学科卒業。94年カリフォルニア大学バークレー校 Ph.D. in Materials Science and Engineering。慶應義塾大学教授、理工学部長等を経て2021年より現職。日本IBM科学賞、日本学術振興会賞を受賞。応用物理学会フェロー表彰、アメリカ物理学会フェロー表彰。

慶應義塾は1858（安政5）年に福澤諭吉によって創立された、日本最古の私立総合学塾です。

慶應義塾には、創立者・福澤諭吉による目的があります。その目的の文章は「以て全社会的先導者たらんことを欲するものなり」で結ばれています。全社会的先導者になるためには世界の舞台に立ち、自分や日本が置かれた現状を理解し、為すべきことを定義して実行する必要があります。

慶應義塾とは、この目的を達成するための塾生（学生）と教職員と塾員（卒業生）の集まりです。自分で考え、人間の尊厳を重んじることで他人の考えにもしっかりと耳を傾け、それぞれの立場や生き方を尊重することができる「独立自尊」の人の集まりです。様々な考えを持つ人の集まりでありながら、互いを尊重するので真の友情が芽生え、協調的に高め合い、困ったときには助け合うことができます。仲間の大切さを知り、自分の存在意義を実感しながら成長できるのが慶應義塾大学です。

慶應義塾大学

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 入学センター TEL 03-5427-1566 <https://www.keio.ac.jp/>

「智徳」と「気品」を兼ね備えた、先導者としての理想の追求

「人生の好循環」が始まる学塾

慶應義塾では塾生自らが、「①学問を通して社会や科学の真髄に迫り、②スポーツ・文化・芸術・社会・福祉活動などの課外活動」を通して人間力を身に付けています。それだけでなく、多種多様な「③国際プログラム」を通じて活動の場を世界に広がっています。

①学問について
慶應義塾には、それぞれの学部が設置する専門教育科目、外国語科目などに加えて、学部を越えて履修が可能な総合教育科目や自由科目、研究所・センターが設置する講座、課外学習プログラムなど、形式も内容も多岐にわたる学びの環境が整備されています。

②課外活動について
公認団体だけでなく文化・芸術、スポーツなどさまざまな分野にわたる400近い団体があります。それらは体育会や文化団体連盟、独立団体、医学部・理工学部・総合政策学部・環境情報学部・看護医療学部・薬学部の学生団体、全国慶應学生会連盟、

福利厚生等、様々です。教室外での課外学習は先輩や塾員との交流の中で社会的な経験を積み、新しい人間関係を作り上げる能力を養う上で大切な機会です。

③国際プログラムについて
幅広い選択肢をそろえています。例えば、海外の協定校と慶應義塾の両方で学び、修了時に両方の学位を取得できるダブルディグリープログラムから、夏季・春季休校中に開催される手軽なプログラムまであり、レベル、期間、内容等、目的に合わせて選択できます。また、学内では900を超える英語による授業（語学を除く）を実施しており、国内にいながら留学と同じように英語で専門知識を学ぶことができます。

このような充実した教育により、塾生は総合力や人間力を備え、社会に不可欠な人材に成長します。その結果、慶應義塾は「最も就職に強い大学」のひとつとして世間から評価されています。就職支援も手厚く行っており、様々なテーマで行う年間100回程度のガイダンスや、進路全般に関わる相談のほか、OB・OG訪問のためのコンタクト先を検索・閲覧し、自分の関心のある分野・企業の塾員と直接話ができるのが、慶應義塾ならではの強みです。そのようにして羽ばたいていった



塾員は様々な立場で社会を先導しており、そのネットワークは極めて強固で、世界中に広がっています。大企業に加えて、これからの社会を創る新進気鋭の企業や非営利団体等の創設や発展においても大活躍しています。塾生は、在学中はもちろんのこと、卒業後も生涯を通じて、塾員のネットワークから多くのチャンスや出会いに恵まれます。

塾生にとっての慶應義塾とは、生涯の友に出会う場であり、世界を股にかけて活躍する、これからの「人生の好循環」の始まりです。

一般選抜出願前に申請し、候補者認定が受けられる「学問のすゝめ奨学金」

本奨学金は、慶應義塾大学の学部



(1) 贈医

無限輪廻天人
医師休道自然臣
離婁明視麻姑手
手段達辺唯是真
という七言絶句で、「医学は自然と人間との限りない知恵比べである。医師は、自分たちは自然の由来に過ぎないなどと言ってはならない。あらゆる手段を尽くして病気を征服するのが医学の神髄であり、そこに初めて医業の真髄が生まれる」という意。

(2) 研究医養成プログラム
「MD-PhDコース」

学部生のうち、3学年から複数の研究室のローテーションや大学院医学研究科博士課程講義の受講を経て、卒業3年（通常4年）で学位を取得できるシステム。医学研究をリードする人材を育成することを目的としている。

(3) 教育中核病院

慶應義塾大学の医局出身者が派遣されている関連病院の中で、さらに特別な条件基準を満たしている病院のこと。IT環境の整備、カテーテル検査の件数、オペの症例数、病床数、診療科数等、医師・研究者などプロの目で細かく規定され点数化されている。若手医師が臨床経験を積むための優れた条件を備えた病院と言える。

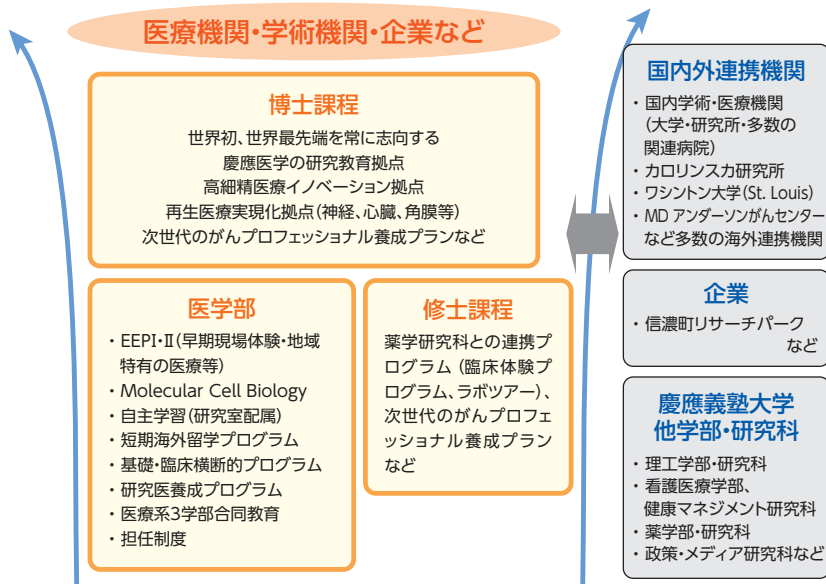
(4) WPI-Bio2Q (<https://bio2q.keio.ac.jp/>)

WPIは、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る国際研究拠点形成する事業。2022年に採択された慶應義塾大学ヒト生物学・微生物叢・量子計算研究センター(Bio2Q)は、日本で初めてのマイクロバイオーム研究拠点である。マイクロバイオームとヒトとの相互作用を分子レベルで明らかにするため、従来の生物学的手法とともに量子コンピューター技術を用いる。



2018年5月より新病院棟(1号館)も稼働中

慶應義塾大学医学部・医学研究科の一貫した教育・研究プログラム



学生の中には、その研究成果を国内学会や国際学会で発表したり、海外の英文誌に発表したりする学生もいます。

関連病院との密接な繋がりで充実した卒前卒後教育

医学教育は医学部の6年間で終わるのではなく、卒業後の10年間の教育を含めた、トータル16年間であると考えられています。慶應義塾大学医学部では、最先端の研究・教育を行う卒業後教育10年間を含めた、一貫した医学教育プログラムを導入しています。

また、慶應義塾大学医学部には関連病院が約100、教育中核病院が35ありますが、卒前卒後教育を通じて、これらの病院と密接に繋がっています。関連病院と大学病院とを行き来しながら、医師としての技術を修得できる教育システムは、慶應義塾大学医学部だからこそ提供できるものです。

こうしたプログラムや2022年に採択されたWPIにより、社会の

ニーズに応える世界レベルの研究が行われています。

活発な国際交流とさまざまな研究機関との連携

海外留学をはじめとする国際交流活動も非常に活発に行っています。短期海外留学プログラムでは、第5学年の学生を海外協定大学の病院に約1カ月間派遣し、その病院実習を単位認定しています。協定大学は、米国、スウェーデン、英国、ドイツ、フランス、オーストラリア、オランダ、ブラジル、オーストラリア、中国、韓国等、12カ国、約20大学に及んでいます。

近年では、OISTと連携し、第2学年を主な対象としたInternational Research Summer Camp、第3学年の「自主学習」先(Research Internship)等を開催し、公用語を英語とする環境下で研究の基礎的能力を身につける機会を増やしています。学生の課外活動として、南米への派遣を行う国際医学研究会(I M A)、日韓医学学生学術交流会、日中

医学学生交流協会、アフリカ医療研究会などの団体があり、いずれも活発に活動しています。

医学部ではこのような海外研究機関で医学研究や学会発表を行う学生を、経済面で支援する制度も充実させています。

医学研究科博士課程では、ワシントン大学セントルイス、ブロード研究所、北京大学、キングズ・カレッジ・ロンドン、カロリンスカ研究所等と活発な交流を行っています。キャンパスには、海外からの学部実習生や研究者が常に訪れており、多くの交流機会があります。

さらに、総合大学としての強みを生かして、薬学部や看護医療学部、理工学部と連携した研究や教育を行っています。医学部と理工学部による「医工連携」では医学ロボットなどを共同開発しているをはじめ、国立がん研究センター、国立国際医療研究センター、国立病院機構東京医療センター、静岡県立静岡がんセンターなどとは大学病院連携を結び、学位取得を可能としています。

慶應義塾大学医学部の学生には医学・医療の分野で大きな社会貢献ができるような夢を抱いていただきたいと思っています。医学の進歩を支えてきたのは間違いなくフィジシャン・サイエンティストであり、その一人になってほしいと思います。そうした大きな志を持った人に対し、慶應義塾大学は全学を挙げて期待に応えていきます。



かない たかのり
金井隆典医学部長
1988年慶應義塾大学医学部卒業。92年同大学大学院医学研究科博士課程所定単位取得退学。ハーバード大学、東京医科歯科大学などを経て2013年慶應義塾大学医学部消化器内科教授。21年より現職。慶應義塾大学医学部三四会北島賞、日本免疫学会ヒト免疫研究賞、日本消化器病学会学術賞など受賞。

2017年に創立100年を迎えた慶應義塾大学医学部は、1917(大正6)年に世界的な細菌学者として知られた北里柴三郎を初代学部長として発足しました。その建学の精神は、現在の医学部の理念である「基礎臨床一体型医学・医療の実現」として受け継がれています。

2015年度には全国から医学を志す精鋭を集めることを目指して、新たな大型奨学金制度を実施、2022年には世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に私立大学で初めて採択されました。現代社会のニーズに応える医療の実現と、世界をリードする「フィジシャン・サイエンティスト」の育成に努めています。

慶應義塾大学 医学部

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 (信濃町キャンパス) TEL 03-3353-1211 <https://www.med.keio.ac.jp/>

基礎臨床一体型医学と医療の実現へ「フィジシャン・サイエンティスト」を育成

「医学部創設の理念を継承し「基礎と臨床一体の医療」を目指す

慶應義塾大学医学部は、「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」を理念として、フィジシャン・サイエンティストの育成を目標にしています。その理念は、1917年に医学部が発足した当時にまで遡ります。

福澤諭吉先生は北里柴三郎先生を招聘された際に、「贈医」と題する七言絶句を詠まれ、北里先生にその想いを託されました。北里先生はこれを受けて医学部発足の挨拶で、「基礎も臨床も境目なく診療科ごとの障壁も外して、すべて医療に携わる人が一家族のごとく集まって、こぞって医学の研鑽に励むことを特色にしたい」と述べられました。慶應医学が唱える「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」は、この初代医学部長・病院長の北里先生の教えを引き、理念化しているものとなります。

この基礎臨床一体型の医学・医療の実現を目標とする「フィジシャン・サイエンティスト」とは、ひと言で言えば「研究能力を備えた医

師」のことであり、自分で問題を提起し、研究の対象として解決法を見出すことができる医師となることを指しています。

「医学部人材育成特別事業奨学金(合格時保証制度)」の創設 全国から精鋭を集める

慶應義塾大学医学部は、全国津々浦々から優秀な学生を集め、かつて福澤諭吉をはじめ、全国の精鋭が学び合っていた緒方洪庵先生の適塾にない、医学界のリーダーを育成する国内筆頭の学塾たることを目指しています。

この思いを込めて2015年度からは、医学部独自の「医学部人材育成特別事業奨学金(合格時保証制度)」を創設し、一般選抜成績上位者10名程度に第1〜4学年の各年度、継続的に原則年間200万円を給付する制度を開始しました。この奨学金制度では、入試の成績がよければ、4年間で1名当たり800万円が給付されます。また2020年より、国際的な大学での研究活動や、特筆すべき国際的な活動を行う学生を支援する国際活動支援奨学金を開始しました。このほかに医学部では2010年度より、研究医養成プログラム「MD・PhDコース」を設置しており、進学者には5、6年次に年間上限100万円の奨学金を給付しています。このコースに進む入試成績上位者は6年間で1000万円を給付してもらえることとなります。

また、2025年度より、一般選抜は一次試験日を2月9日とし、日程上受験が難しかった遠方の受験生に配慮した試験を実施します。

医学概論で1年生から医学に触れ、自主学習で2年生から研究に打ち込む

医学概論や独自の自主学習で学生時代から研究に打ち込む慶應義塾大学医学部の教育は、将来の世界の医学と医療を作り出していくことのできる、創造的な医師・研究者を育成することを最大の特徴としています。

第1学年では、信濃町キャンパスで開講される医学・医療の入門編の講義として医学概論を開講。トップランナーから最新の医学・医療を学び、医学部を卒業したキャリアについても考えてもらいます。講義のほかに1ヶ月に一度、信濃町の専門科目教員とのゼミナールを行います。

第3学年では「自主学習」が組まれ、学生は希望する研究室でマンツーマンにより指導を受けます。2021年に入学した学生からは、3年生の7月、9月、10月を研究期間として確保しており、夏休みを含めれば、4ヶ月間、研究に没頭できます。また学内の研究室のみならず、海外や国内の学外施設での研究留学も可能になります。2023年度は、沖縄科学技術大学院大学(以下、OIST)に8名、ジョンズホプキンス大学に2名の学生が研究留学する予定です。このプログラムは学生が自ら研究し成果を挙げていくもので、